

第14回 BELCA賞決定

BELCAではこのたび、第14回BELCA賞の表彰物件（10物件）を以下の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、表彰式は来る平成17年5月18日(木)16時より、東京都中央区日本橋蛸殻町のロイヤルパークホテルで開催されます。

第14回 BELCA賞表彰物件

ロングライフ部門

物件名	所在地	竣工年	用途	所有者	設計者	施工者	維持管理者
1 大阪芸術大学 塚本英世記念館／ 芸術情報センター	大阪府南河内郡	1981	大学、図書館 展示ホール ギャラリー AVホール 実験ドーム	学校法人 塚本学院	(株)第一工房	大成建設(株)	近畿建物管理(株)
2 大阪女学院 北校舎・チャペル	大阪市中央区	1951	校舎 講堂	学校法人 大阪女学院	(株)一粒社ヴォーリス 建築事務所	(株)竹中工務店	学校法人 大阪女学院
3 学校法人 星薬科大学 本館	東京都品川区	1924	大学本館	学校法人 星薬科大学	アントニン・レーモン ド	清水建設(株)	学校法人 星薬科大学
4 天照皇大神宮教 本部道場	山口県熊毛郡	1964	大道場小道場 事務室 会議室ほか	宗教法人 天照皇大神 宮教	大谷 幸夫	清水建設(株)	宗教法人 天照皇大神 宮教
5 三越本店本館	東京都中央区	第1期 1914 第6期 1964	物販店舗 飲食店 ホール 劇場	(株)三越	(株)横河建築設計事務所	清水建設(株)	(株)三越環境サービス

ベストリフォーム部門

物件名	所在地	竣工年	改修年	用途	所有者	改修設計者	改修施工者
				改修前	改修後		
1 東京国立近代美術館	東京都千代田区	1969	2001	美術館	同左	独立行政法人 東京国 立近代美術館	鹿島建設(株) (株)松村組
2 巴川ビル	東京都中央区	1920頃	2000	事務所	飲食店	大成建設(株) (株)キハチアンドエス	大成建設(株)
3 奈良県庁舎	奈良県奈良市	1965	1999	事務庁舎	同左	奈良県	(株)日建設計 (株)奥村組 三井住友建設(株) (株)浅川組 (株)尾田組 (株)山中工務店
4 横浜情報文化セン ター(Ⅰ) 横浜都市発展記念館 (Ⅱ) 横浜ユーラシア文化 館(Ⅱ)	横浜市中区	1929	2000(Ⅰ) 2002(Ⅱ)	展示場・ 事務所(Ⅰ) 事務所(Ⅱ)	博物館 図書館 事務所 飲食店	(財)横浜産業振興公社(Ⅰ) 横浜市教育委員会(Ⅱ)	(株)日建設計(Ⅰ) 横浜市建築局教育施設 課(Ⅱ) (株)日建設計(Ⅱ) 鹿島建設(株)(Ⅰ) 和同建設(株)(Ⅰ、Ⅱ) (株)共栄社(Ⅰ、Ⅱ) 新興電設工業(株)(Ⅰ) (株)江電社(Ⅰ) エルゴテック(株)(Ⅰ) 大澤工業(株)(Ⅰ) 日宝工業(株)(Ⅰ) 川本工業(株)(Ⅰ) 昭和設備工業(株)(Ⅰ) (株)神奈川保険事業社(Ⅱ)
5 立教大学第1食堂	東京都豊島区	1918	2002	学生食堂	同左	学校法人 立教学院	立教大学管財部施設課 (株)坂倉建築研究所

(物件名の五十音順)

BELCA賞の概要

BELCA賞は、適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものの関係者をロングライフ、ベストリフォームの2部門により表彰し、もって良好な建築ストックの形成に寄与することを目的に設けられた、我が国初の既存建築物の総合的表彰制度です。

BELCA賞は平成3年に創設され、今回の表彰が14回目となります。

受賞者には(社)建築・設備維持保全推進協会会長より表彰状が贈られ、また建物所有者に対しては、文化勲章受章者・文化功労者の彫金作家帖佐美行氏の手による賞牌が贈呈されます。

表彰の種類として、ロングライフ部門とベストリフォーム部門の2部門が設けられています。

ロングライフ部門は、建築物のロングライフを考慮した適切な設計のもとに建設され、長年にわたり適切な維持保全が実施され、建築後20年以上を経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものであり、ベストリフォーム部門は最近改修され、その改修により画期的な活性化が図られ、改修後1年以上を経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものです。

(来る5月より募集する第15回から、ロングライフ部門の応募要件は「建築後30年以上」となります。)

なお、受賞者はロングライフ部門については、建物所有者、設計者、施工者、維持管理者の四者であり、ベストリフォーム部門については建物所有者、(改修に際しての)設計者、(改修に際しての)施工者の三者です。

また、過去の主な受賞物件と今回の表彰物件まで含めた受賞数は以下の通りです。

ロングライフ部門・・・世界平和記念聖堂、三井本館、服部時計店、国立劇場

日本生命日比谷ビル、在日米国大使館大使公邸、経団連会館

伊予銀行本店、丸石ビルディング、立教学院諸聖徒礼拝堂

日清製粉株式会社鶴見工場工場本館、世界貿易センタービルディング等68物件

ベストリフォーム部門・・・大阪マーチャングイズ・マートビル、南座、霞ヶ関ビル

神戸郵船ビル、水の科学博物館、横浜市大倉山記念館

品川女子学院、聖路加国際病院1号館・トイスラーハウス

大和銀行虎ノ門ビル、ピーエス株式会社オランジュリ

横浜赤レンガ倉庫等68物件

第14回BELCA賞選考委員会(順不同・敬称略)

委員長	内田	祥哉	(東京大学名誉教授)
副委員長	三井所	清典	(芝浦工業大学建築学科教授)
副委員長	鎌田	元康	(東京大学大学院工学系研究科教授)
委員	上田	博司	(東急不動産 都市事業本部ビル事業第二部執行役員統括部長)
〃	上村	英彦	(㈱きんでん 取締役技術本部長)
〃	大越	俊男	(㈱日本設計 参与)
〃	可児	才介	(大成建設㈱ 常務設計本部長)
〃	瀬田	光雄	(三機工業㈱ 常務執行役員技術・業務統括本部長)
〃	畑本	忠幸	(日本管財㈱ ベストシステムズ推進本部本部長)
〃	龍門	達夫	(㈱I N A新建築研究所 取締役)
〃	割田	正雄	(清水建設㈱ 執行役員建築事業本部設計本部長)

第14回BELCA賞選考総評

BELCA賞選考委員会委員長 内田 祥哉

BELCA賞は、良好な建築ストック、つまり社会の中で生き生きと活用される建築の形成に寄与することを目的に設けられた賞で、綿密な長期計画で適切な維持保全を継続しているもの、優れた改修を行って建物を蘇生させたものから、特に優秀なものを選び、その関係者をロングライフ、ベストリフォームの二部門に分けて表彰している。平成3年以来13回、合計で表彰件数は126に達するが、地球環境問題などを背景に、建築物の長期利用の気運が高まる中で、応募は漸増の傾向にある。

ところで近年、社会の変容に伴う建築性能・設備の変革が速度を増すにつれ、長寿化のためにも機能・設備の更新が、欠かせなくなり、ロングライフとベストリフォームの違いが微妙になっている。この状況を捉え、第11回の選考よりロングライフとベストリフォームの区別にこだわらないで、合計10件を選ぶことになったが、以来偶然にも毎年それぞれ5件ずつとなり、今回もまた5件ずつとなった。

今回のロングライフ部門の入選は、学校3件、宗教施設1件など用途が安定した施設の多い中に、ただ1件、老舗の百貨店が加わったのが異色で、老舗のブランドイメージと、古典的建物イメージを重ね合わせるねらいがあると思われる。ベストリフォーム部門でも、中古建築の外装を保存してレストランのイメージ造りをしたものがあり、レトロ趣向が社会の若年層にも浸透しつつあることを感じさせた。

それとは逆に、ベストリフォーム部門では、引き続き「コンバージョン」への関心が高い反面、今回は、学校・庁舎・美術館など、用途変更の無いリフォームが多数となった。これらは、建設当初のままでは時代の変化に遅れるとして、設備・機能を一新するリフォームである。竣工時の機能をそっくり維持・温存するだけでは時代の要請に追いつけない昨今の情勢を感じさせる。他方、竣工時に先進的で高度な機能を持っていた建物が、その後の維持管理で当初の技術より見劣りするとして、選考から漏れたものがあった。優れた先進機能を持って竣工した建物には、維持管理の段階でも、先進的であってほしいというのが、審査員達の願望であったようだ。

昨年は新しい地域からの応募入選が印象的であったが、本年は繰り返し、あるいは類似の物件の応募が目についた。今回表彰される物件が、我が国の優良な建築ストックの形成に寄与することを願い、受賞物件の関係者に対して深く敬意を表したい。

第14回BELCA賞ロングライフ部門選考講評

BELCA賞選考委員会副委員長 鎌田 元康

第14回BELCA賞ロングライフ部門には、例年どおり全国から、優れた維持保全を行い、現在でも有効に活用している物件の応募をいただいた。1次の書類審査を通過した建物に対し、2次の現地審査を行い、厳正な審査の結果、以下の5物件がBELCA賞ロングライフ部門の表彰物件として選定されたが、1981年竣工の物件が最も新しいものであり、戦前竣工の2物件を含んでいる。ロングライフ部門の募集条件が、次回（第15回）から“竣工後30年以上を経過したもの”に変更されるが、そのことによって応募物件数が減少するのではという懸念を払拭させるような結果となった。

「大阪芸術大学塚本英世記念館／芸術情報センター」（1981年竣工）は、単なる大学図書館の枠にとらわれることなく、芸術に関する様々な情報を収集し、研究に使用するとともに、それらを活用して新たな情報を発信できる施設として計画された建物であり、外壁ばかりでなく、建物内部の壁、天井、ダクト、階段など、ふんだんにコンクリート打放し仕上げが採用されている。外装および内装とも、極めて精度の高い密実なコンクリート打放し仕上げが行われたことから、竣工後23年経過した現在でも、ほとんどメンテナンスフリーで竣工時の状態を維持している点が、まず高く評価された。また、建設当初より最新の設備機器・機材が導入されていたため、大幅な設備更新を行うことなく使用され続けている。

「大阪女学院 北校舎・チャペル」（1951年竣工）は、終戦時、焦土の中で再開を諦めかけていた学院関係者が、父兄の声に後押しされ、授業再開に向けて生徒、父兄とともに手造りで再建に立ち上がった熱意に対し、米国教会の援助がなされ建設されたものである。所有者である大阪女学院、設計者である一粒社ヴォーリズ建築事務所、施工者である竹中工務店の3者が一体となって運用管理計画を立て、計画にもとづく点検・維持修繕が丁寧に続けられたことが、高い評価を受けた最大の理由といえる。築後30年目に設備の充実、外装サッシュの取替えの大規模修繕が、50年目に耐震補強工事と電気・空調設備、教育設備の更新が行われるなど、絶え間ない努力を続けている。北校舎の耐震補強では、オリジナルデザインを尊重した上で、既存外壁面にRC造外殻フレームを新設する手法を採用し、成功している。

「学校法人 星薬科大学 本館」（1921年竣工）は、アントニン・レーモンド設計による、当初は屋内プールを持つ、アメリカンスタイルの趣のある商科学校の校舎であった。終戦後は一時GHQの施設として利用され、大学に返還されて以降、再三の改修を経て使い続けられ、2002年に最低100年は使い続けることを命題とし、耐震補強を主目的とした大規模な改修が行われている。建物平面の特徴を活かし、耐震壁をメインホールの4隅廊下、水廻りなどに配置し、外壁に設けることなく原設計の外観を確保しつつ耐震補強を行っていること、汚れにくくなるようディテールの改良を行っていること、設備的な改修では、見え掛かりに十分配慮しつつ、環境・機能の改善を行っていることなどが評価された。

「天照皇大神宮教 本部道場」（1964年竣工）は、コンクリート用骨材の採取、打放しコンクリートの打設、石積み、コンクリートブロックの製作などが、教団教祖の指導により、素人同然の同志の労務奉仕によって行われ、建設された宗教法人の本部道場である。新築時に、理想的かつ高い水準で成立した施主、設計者、施工者、3者の連携が、今日まで継続している点が高く評価された。築後30年経過した時点で外壁面の水洗いおよびフッ素樹脂塗装を行い、トップライトの交換を行っている以外、大幅な改修は行われていないが、維持保全にかかわる人々の努力により良好な状態に保たれている。

「三越本店本館」（第1期、1914年竣工）は、鉄骨カーテンウォール式煉瓦造で、エスカレータ、エレベータ、スプリンクラー、暖房換気など、当時最新の設備が設けられた第1期の建物に、1964年の第6期まで増・改築が行われた百貨店であり、物販店舗、飲食店、ホール、劇場などの用途からなる。1914年以降、常にそれまでに築かれてきた資産を大事にしながら、一貫性をもって増・改築を重ねてきた姿勢および建物外観や機能を損なうことのない免震化工事の計画などが高く評価された。また、建築主ばかりでなく、維持管理者、設計者、施工者が一体となって、良好な人間環境のもと、建物に愛着・愛情を共有し、かつ時代の要請に合致した運用を行っている。

第14回BELCA賞ベストリフォーム部門選考講評

BELCA賞選考委員会副委員長 三井所 清典

第14回BELCA賞ベストリフォーム部門に多数の応募をいただいた。この部門はリフォームの概念が広く、毎年ロングライフ部門と区別しにくい応募案がある。特に建物の主な用途が変わらず、耐震改修や設備機能の更新・向上を計ったケースはどちらに区分しても、それぞれ主張できる筋がある。そういう理由で今年も一次の書類審査、二次の現地審査とも両部門を区分せずに審査を進めた。結果として、入賞物件はいずれも応募者の区分の通りに結着した。

最近の傾向をみると、創建当時のニーズに応じてつくられた建築も時代の変化とともにニーズが変わり、性能が格段に向上したり機能が豊かになったり、多様化したりするため主な機能が同じでも、リフォームと捉えられるケースが多い。今回の表彰物件では、東京国立近代美術館、奈良県庁舎及び立教大学第1食堂がこの中に入る。巴川ビルと横浜情報文化センター等は用途が変わったいわゆるコンバージョンのケースであり、この二つは建物の古い時代性が尊重されたものである。選外には省資源の観点や省エネルギーといった環境的観点を強調したコンバージョンの応募もあった。

「東京国立近代美術館」(1969年竣工、2001年改修)は北の丸の都市景観として定着している外観を壊さないことを要件に、現代の美術館に求められる機能の向上及び耐震性能の確保を実現したリフォームである。機能充実のための増床を、立面への影響の少ない西側隣接建物の間と地下階の階高変更によって拡張したこと、エントランス広場、ミュージアムショップ、レストラン増築などのアメニティ施設をフリーゾーンとして前面にまとめながら、それらを印象強く枠取りされた白い主要立面の下部に納めたこと、耐震補強を増築部と床面鋼板貼補強によって実現し、既存のピロティの列柱を残したことなどでイメージの保存に成功している。改修された照明・空調の質も高い。

「巴川ビル」(1920年頃竣工、2000年改修)は銀座の表通りから一筋入った街角にある。当初は銀行、後に事務所ビルに使われていたが、老朽化が進み、この数年はテナントもなく、解体を待つ状況であった。今回のリフォームは、やや深めに設けられたポツ窓の並びが創建時の雰囲気醸成しており、その古びた佇まいに価値を見出し、汚れも含めて外観を保存し、内部をクオリティの高いレストランに一新させたものである。入れ替えられたステンドグラスはしっかりと作られた内装と相俟って外観と調和した古い時代性を演出している。耐震補強は、道路に面さない2面の外壁全面に鋼板を貼るとともに5階の床を抜いて軽量化を計ることで解決している。古建築の外観を保存してビジネスに活かす構想が評価された。

「奈良県庁舎」(1965年竣工、1999年改修)は計画当初、近代建築が古都・奈良の景観に合うかという大論争を経て実現したことを尊重し、又その後多くの県民に受け入れられてきた経緯から外観の保全を前提に、機能の向上及び耐震性能の確保を実現したリフォームである。機能的には主棟の各階に部局を配し、応接・打合せスペースを設け、バリアフリー化やゆとりのある県民ホールの実現、屋上の開放など来庁者へのサービスを増している。耐震補強はコア部分に鉄骨柱の新設を含む大規模補強を行い、回廊の列柱は撤去して打直す困難な工事に挑み、美しいコンクリート打放し仕上げを再現している。設備環境も向上し、執務を休むことなく延べ移転回数15次33回の3年に亘る工事を完遂している。

「横浜情報文化センター・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館」(1929年竣工、2000年及び2002年改修)は歴史的建造物の多い横浜関内地区にあり、旧横浜商工奨励館及び旧横浜市外電話局の二つの異なる建物の外観を保全し、新しいニーズに応える機能を再生させている。現実には、表通りからセットバックした地上12階地下3階の新築棟と一体となった複合文化施設であり、新設の地下鉄と接続する入口部分は旧建物を一部解体し復元されている。再生に当たり、旧横浜商工奨励館は躯体の中性化が進んでおり、電氣的再アルカリ化工法が採用されるなど工夫が凝らされている。横浜市の歴史的建物の保存の熱意に、設計と施工の技術者が誠実に応えたりリフォームである。

「立教大学第1食堂」(1918年竣工、2002年改修)は、キャンパスのレンガ造低層建築群で構成されるメモリアルゾーンの中心施設であり、東京都歴史的建造物に選定されている。しかし耐震診断ではレンガ壁の転倒が指摘され、今回のリフォームでは耐震補強と機能の向上が実現された。従前はこまかい改修の積重ねで、食堂内部は雑然として落ち着かない様子であったが、RC造の厨房棟を食堂裏に新築し、配膳口や空調設備等をすべて厨房棟に移し、地震力も厨房棟で支える方法により、食堂を創建当時のイメージに回復することに成功している。食堂内部の耐震補強は木造小屋組に目立たないように鋼材を用いており、厨房棟から通路の上部を飛ばすダクトレス空調のアイディアも食堂をすっきり保つことに効果がある。